

鹿児島市立美術館

市美だより 2019.初夏号

巨匠が描いた思い出の夏の色

和田 英作



和田英作《赤い燐寸》1914年

新しい1万円札の肖像に、日本の資本主義の父とされる実業家、渋沢栄一が用いられることとなりました。本作に描かれている男性は、その息子の秀雄です。この絵を描いた和田英作（垂水市出身）は、渋沢栄一と親しく、当時、旧制一高の学生だった秀雄に絵の指導をしていました。

和田は、顧問をしていた東京美術学校水泳部員を連れ、伊豆の土肥海岸で合宿をしたとき、秀雄も同行させていました。和田は浴衣姿の秀雄を海に突き出た岩の上に立たせ、灼熱の太陽のような真っ赤なマッチ箱を手を持たせて、強烈な夏の

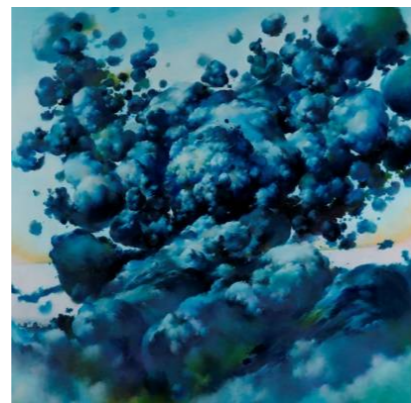
光と帽子でできた影が交錯する姿を描きました。後日、和田は「マッチの光は一瞬しか残らないが、良い思い出は永久に残る。」という意味のフランス語を書いた同作品の絵葉書を秀雄に送ったそうです。

《小企画展》 空の色、水の色
— 競演・画家たちの描いた色

5月28日(火)⇒7月15日(月・祝)



当たり前のように存在する空と水。画家たちによって描かれるこれらの色は、目に映る色だけでなく、場所や時間の変化により独自の心象として表されています。今あなたのイメージにぴったりの色を見つけてください。



山下晴道《SORA' 11-II -Aggregate-》2011年

初夏の所蔵品展 5月21日(火)～7月7日(日)

●展示中の主な作品●

西洋絵画



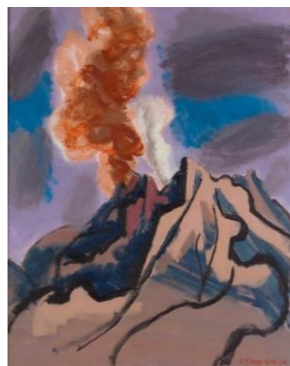
ラファエル・コラン 《婦人肖像》1893年

日本絵画



黒田清輝 《自画像》1889年

桜島コレクション



曾宮一念 《南岳爆発》1957年

工芸



新納忠之介《木彫亀》1893年

特集：平成30年度新収蔵品

平成30年度に当館が新たに収集した作品8点を、所蔵品として初公開します。

郷土を代表する海老原喜之助の油彩画2点をはじめ、江戸後期の能勢一清から昭和の山下巖にいたる日本画5点、さらに当館初の受託作家となる田中一村の色紙絵まで、バラエティーに富んだニューフェイスの数々をお楽しみください。



海老原喜之助《雪の港》1927年



★ ギャラリートークのご案内 (作品解説会)
学芸員が作品について分かりやすく解説します。

毎週土曜日、14:00～15:00実施しています。

《トーク内容》

- 6月1日 初夏の所蔵品展「西洋美術」
- 6月8日 初夏の所蔵品展「日本の美術」
- 6月15日 小企画展「空の色、水の色」
- 6月22日 平成30年度新収蔵品
- 6月29日 小企画展「空の色、水の色」
- 7月6日 平成30年度新収蔵品
- 7月13日 小企画展「空の色、水の色」
- 7月20日 特別展「シャル=フランソワ・ドービニー展」
- 7月27日 夏の所蔵品展「西洋美術」
- 8月3日 特別展「シャル=フランソワ・ドービニー展」
- 8月10日 夏の所蔵品展「彫刻・工芸」
- 8月17日 特別展「シャル=フランソワ・ドービニー展」
- 8月24日 夏の所蔵品展「西洋美術」
- 8月31日 特別展「シャル=フランソワ・ドービニー展」

夏の特別企画展

「シャル=フランソワ・ドービニー展」

「学校のための特別展割引制度」の活用について

特別企画展を鑑賞する児童・生徒・学生の観覧料を、通常割引価格よりも更に低料金とすることで、学校の教育活動を支援することを目的としています。

適用には学校からの申請が必要になります。